

1 単元 「球技（ゴール型）～コーフボール～」

2 指導観

- 近年注目される SDGs。その中の目標5「ジェンダー平等を実現しよう」は、視点をグローバルに移してみると、今の日本状況にはいまだ課題があることに気づかされる。男女共同参画は、日本社会の未来をめぐる課題であり、共生の視点に基づく指導や男女共習の推進が求められている。

本単元では、パスなどのボール操作でマークをかわしてゴール前までボールを運び、シュートを放つことができるようになることをねらいとする。学習内容としては、コーフボールの特性、基本的なパス、各ポジションの役割、空間に走り込む動きの重要性、ゲームの分析方法、ゴール型集団球技の合理的な必勝法、公正な態度の重要性等がある。本単元は、男女混合（1チーム男女各4人の計8名）のゴール型の競技である。他のゴール型球技と異なり、ドリブルは禁止されているので頭を上げてパスをする時に相手をしっかり探せるため「空間的認知」を学習する教材にも適している。また、ボールを持ってから移動ができるのは2歩まで。バスケットボールのようなバックボードはなく、360度どこからでもシュートが打てるが、どこから打っても1点である。試合は男女混合で行うが、異性をマークすることや接触プレイは禁止となるため、コーフボールの独自のルールで戦略性も必要であるが、より一体感を味わえることができるため意義深い。

個人情報保護のため、
生徒観は省略しています。

- 本単元の指導にあたっては、ゴール型集団球技の構造を捉えさせながら協働的な課題を設定し、ICT機器を活用しながらゲーム分析する活動を中心として課題を解決できる学習を仕組む。そのためまず、コーフボールの特性を捉え、本単元の見通しをもたせる。ここでは、コーフボールの特性を捉えさせるために、試しのゲームをさせ、空間活用の特徴について問う。次に、ゲームを行い、自己やチームの課題の解決に取り組ませる。ここでは、ゴール型集団球技の基本的な構造を捉えさせるために、パスの課題「パスタイミングの重要性」を提示し、取り組ませる。また、ゲーム中の動きを俯瞰的に捉えさせるために、ゲーム中のプレイを撮影させ、個々の動きについての気づきを発表させる。さらに、ゲームを行い、自己やチームの課題の解決に取り組ませる。ここでは、ゴール型集団球技の発展的な構造を捉えさせるために、共有の課題「空間的認知の必要性」を提示し、取り組ませる。また、ゲーム中の動きを俯瞰的に捉えさせるために、ゲーム中のプレイを撮影させ、個々の動きについて空間に走りこんだりマークしたり、自己の役割の視点から成果と課題をまとめさせる。最後に、リーグ戦を行い、効果的な戦術についてまとめさせる。ここでは、公正な態度の重要性を捉えさせるために、審判団の価値について問う。また、合理的な必勝法を考案させるために2つの課題解決を通して学んだ内容をレポートにまとめさせる。

3 目標

- コーフボールの特性やボールを持たない時の動き、ゲーム分析の方法を説明すること及び、パスのタイミングや空間に走りながらゲームを行うことができる。
- コーフボールのゲームで攻守における自己やチームの課題を把握して、課題解決のための練習方法を工夫することができる。
- 安全に留意し、互いに協力して練習に取り組み、公正な態度でゲームに参加しようとする。

4 計画 (10 時間)

知：知識・技能 思：思考・判断・表現 態：主体的に学習に取り組む態度

次	配時	学習活動・内容	主な手だて (○)	評価の規準
一	1	1 コーフボールの特性を捉え、本単元の見通しをもつ。 ・コーフボールの特性	○ コーフボールの特性を捉えさせるために、試しのゲームをさせ、空間活用の特徴について問う。	態：積極的にゲームに参加しようとしている。
二	3	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">学習課題 (パスの課題) パスのタイミングの重要性。</div> 2 ゲームを行い、自己やチームの課題の解決に取り組む。 (1) 課題解決の方法をつかむ。 ・ルール ・パスの種類 (2)～(3) 課題解決のための戦術を実行する。 ・ディフェンスの役割 ・オフェンスの役割 ・シューターの役割 ・マークの効果 ・リバウンドの役割	○ ディフェンスの役割を果たし、相手の動きをマークできるようにさせるために、ポジショニングについて問い、効率の良い練習方法を紹介する。 ○ オフェンス時 (ボール所持・ボールを持たない) の攻め方を捉えさせるために、上級者チームのゴールまでボールを運ぶプレイ動画を、特定のプレイヤーを視点に視聴させ、そのプレイヤーの動きの特徴を問う。 ○ ボールを持たない時の動きが重要であることを把握させるために〈内化1〉、自チーム動画を撮影させ、ゲーム中における空間に着目させチーム分析させる。〈外化〉	知：ディフェンスとオフェンスの役割を捉え動くことができる。 知：マンツーマンディフェンスの役割を捉えてマークできる。 知：空いたスペースに動き、パスをもらうことができる。
三	3	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">学習課題 (共有の課題) 空間的認知の重要性。</div> 3 ゲームを行い、自己やチームの課題の解決に取り組む。 (1)～(2) 空間をつくり出すための方法をつかむ ・ポジショニング ・ゲームの分析方法	○ パスを回す順番やリバウンドをとるなどの役割分担を捉えさせるために、上級者のプレイ動画を視聴させ、動きの特徴について問う。 ○ 得点しやすい形をいかに意図的につくるかを気づかせるために〈内化1〉、コーフボール日本代表の動画を視聴させ、工夫点について問う。	知：各ポジションに応じた役割分担の重要性について記述することができる。 思：チームの特性に応じた戦術を考案することができる。
	本時	(3) 空間をつくり出すための方法を実践する。 ・シュートするときの空間の有効性 ・拍手の効果	○ ゲーム中の動きを俯瞰的に捉えさせるために、ゲーム中のプレイを撮影させ、個々の動き方 (オフェンスとディフェンス) の視点から成果と課題をまとめさせる。〈外化〉	思：チームの課題を把握し、解決方法を提案することができる。
四	3	4 リーグ戦を行い、効果的な戦術についてまとめる。 ・公正な態度の重要性 ・コーフボールの価値 ・ゴール型集団球技の合理的な必勝法	○ 公正な態度の重要性を捉えさせるために、審判団の価値について問う。 ○ コーフボールの価値を捉えさせるために、単元を通して経験したコーフボールの良さについて問う。 ○ 合理的な必勝法を考案させるために、2つの課題を解決する際に学んだ学習内容を踏まえてレポートにまとめさせる。	知：公正にリーグ戦を行うための要点を説明することができる。 態：互いに協力しながらリーグ戦を運営しようとする。 思：合理的な必勝法を考案することができる。

5 本 時 令和4年11月10日(木) 第4校時 計画 第三次の3 体育館にて

(1) 主 眼

○ 動画撮影によるゲーム分析を通して、チームの課題を把握し、解決方法を提案できる。

(2) 準 備

- ①シュート位置の異なる2種類の画像 ②ゼッケン ③コーフボール ④試しゲームの動画
⑤クロームブック

(3) 過 程 I・・・コンフリクト II・・・内化1 III・・・外化(内化2) IV・・・リフレクション

学習活動・内容	準備	段階	主な手だて(○) 評価(◇)	形態	配時
1 シュートが打ちやすい状況を確認し、本時のめあてを確認する。 ・シュートが打ちやすい空間のつくり方 めあて シュートが打ちやすい空間をつくり、チームで協力して得点につなげよう。	① ② ③	I	○ シュートが成功するための条件を捉えさせるために、コーフ(ゴール)から近距離と遠距離の2つの画像をみせ、どちらのシュートが成功しやすいか問う。その後、近距離にディフェンスをつけた画像をみせ、その意図について問う。	一斉	10
2 チーム練習を行う。 ・ボール操作(シュート・パス) ・ボールを持たないときの動き(空間・落下点・走り込む)	④	II	○ 味方が動くタイミングでパスする重要性を捉えさせるために、パスを出すタイミングについて問い、試しのゲームで撮影した場面を動画で視聴させる。 ○ 各ポジションの役割を果たし、コーフ(ゴール)際にボールを運び、ねらった位置からシュートをさせるために、「空間をつくり出すためには何が大切か」問う。	個 ↓ 小集団	10
3 簡易ゲームを行う。 ・戦術を分析する際の視点	⑤	III	○ ゲーム中の動きを俯瞰的に捉えさせるために、ゲーム中のプレイを撮影させ、個々の動き方(オフェンスとディフェンス)の視点から成果と課題をまとめさせる。 ○ 積極的な姿勢でゲームに参加できるようにするために、得点した際に拍手をするよう指示する。また、拍手が不十分な際に助言する。 ○ 役割分担ができているかフィードバックさせるために、役割分担をしてシュートがきまったチームをその場で称賛する。	小集団	20
4 本時の振り返りをする。 ・各ポジションに応じた役割分担の重要性		IV	○ 各ポジションに応じた役割分担の重要性を捉え、本時の学習内容を整理させるために、ロイロノートに本時の学習活動を通して実感したことをまとめさせる。 ◇ 各ポジションに応じた役割を果たそうとする際に、チームの課題を把握し、解決するための方法を各ポジションの役割の視点から記述できたか。<ロイロノートに分析・様相観察>	一斉	10